

統括チームとしての 活動実践と提案

令和8年熊本地震への保健師等チーム派遣から見えてきた課題

滋賀県

1. 統括チームの活動概要

派遣体制と派遣班

派遣班・活動日	班構成	役割・特徴	活動概要	配慮したこと等
1班 8月5日 ～8日	保健師3名 (主幹・主査・主任) 獣医師1名	情報収集 提案と試行	・在宅巡回訪問支援の実施 ・統括リーダー役の打診を受ける ・業務の効率化、進捗管理、事務負担の軽減のためのDX化提案・試行	・市との信頼関係を築く。 ・市の負担軽減のための業務提案をする。 ・市へ負担をかけずに情報収集・共有するため、毎朝課ミーティングに参加依頼。
2班 8月8日 ～12日	保健師2名 (主幹・主査) 薬剤師1名	体制構築・形成 取組の確立	・在宅巡回訪問を担う保健師等チームの「統括チーム」の活動開始 ・具体的な取り組みの確立	・市の方針や思いに添って修正を加える押し付けにならない支援 ・各支援チームへの意識的な声掛け・情報交換
3班 8月12日 ～16日	保健師2名 (主幹・市) 薬剤師1名	システム定着 取組の推進	・在宅巡回訪問を担う保健師等チームの「統括チーム」の定着 ・効率的・効果的な取り組みの推進	・市の意向を尊重し、押し付けにならない支援 ・支援チームが相談しやすい雰囲気づくり
4班 8月16日 ～20日	保健師2名 (参事・市) 獣医師1名	活動継続 対象変更	・統括チームとして、効率的・効果的に取り組みを進める。 ・訪問調査の収束に向けた資料の提示	

派遣体制と派遣班

派遣班・活動日	班構成	役割・特徴	活動概要	配慮したこと等
5班 8月20日～24日	保健師2名 (主幹・町) 薬剤師1名	目的や状況変化に応じた取組の提案	・今後、必要と考えられる取組みの提案 (不在者と避難所避難者名簿の突合、要支援者へのフォロー)	・9月以降の活動方針について、八代市統括保健師の思いの確認に努めた
6班 8月24日～28日	保健師2名 (主幹・市) 獣医師1名	在宅・避難所避難者の情報共有 方針の協議	・避難所と在宅訪問の現状と課題、今後の取組を協議 ・訪問対象者の変更(75歳以上高齢者世帯→要支援者フォロー、慢性疾患、不眠等高齢者)に伴う記録等の準備を支援	・避難所・在宅避難者合わせた全体の方針協議の場に参画
7班 8月28日～31日	保健師3名 (課長補佐・主査・主任) 獣医師1名	次段階への移行準備 引き継ぎ	・9月からの避難所の拠点化・集約に伴う自宅帰宅者増加への対応協議 ・大分市への業務引継ぎ	・大分市の業務が円滑にできるようDHEATと共に丁寧な引き継ぎ

- ◆ 滋賀県保健師等チーム構成は、各班リーダーがキャリアレベル(A-4)以上保健師
- ◆ 3班～6班には、市町保健師がチーム員にはいる

統括チーム打診時の八代市の状況(8/7)

- 8チーム(8/5)→17チーム(8/6)→18チーム(8/7)と徐々に増加する保健師等チーム対応
- 市の職員は、休みもままならず、膨大な業務に追われ、日に日に疲弊される様子がうかがえた。
(市統括保健師は、発災後1日しか休んでいない。市の保健師の自宅タンスが倒れたり物が散乱しているが、休めず近所の方がタンスを戻してくれていた状況。)
- リエゾンに入っていた保健所保健師から滋賀県チームに統括チームの打診を受ける。
- 熊本県統括保健師から滋賀県統括保健師に、滋賀県チームの活動変更の依頼電話。

統括チームとしての依頼・提案(8/8)

【市から依頼されたこと】

- 新規支援チームへのオリエンテーションとその資料作成(業務の負担軽減)
- 支援チームの訪問地域の割り当て、地図の提供
- 支援チームの訪問後の結果報告を受ける、記録・地図の回収、市への報告

【滋賀県が提案したこと】

- 支援チームの出勤簿を各自入力してもらうグーグルフォームを作成等支援チーム管理のDX化(業務の効率化)
- 支援チームの訪問件数や要支援者数を確認し、リスト化等。(業務の進捗管理)
- 毎朝8時30分～健康推進課ミーティングに同席させてもらう。(職員への負担をかけずに課の動きや情報収集)

- 八代市健康推進課の業務負担軽減を行うために、八代市保健師とも相談しながら、支援できる業務の確認と提案を実施。
- 信頼関係を築きながら、実現可能な事から提案していくように努める。
- 八代市保健師は、「そんなこと頼んでいいんですか」と気を遣う反応。

統括チームとしての活動の実際(3班のある日)

時間	項目	内容等
8時30分	課ミーティング	当日の課内予定・活動の確認
9時	全体ミーティング @すこやかルーム	(代表者のみ)当日の活動等の確認 滋賀県チームからも周知事項があれば、この場を活用する
9時過ぎ	各チームへ本日の訪問 対象者名簿を渡す(その後、各チームは準備の後、家庭訪問へ)	朝に市の執務室から一式受け取り、配布前に書類がそろっているかの確認+本日分のチェックリストを入れる。 (8/12~)滋賀県チームから各チームへ、当日の訪問対象者名簿と地図、タブレットを渡す 各チーム内で、地図にて訪問対象者の自宅を確認し、割り振りを行い訪問へ
(随時)		新規チームへのオリエンテーションの実施*1 前日訪問数の整理 市の業務負担等軽減のための工夫・改善を考え相談や検討を進める 午前の訪問先から帰庁した各チームからの相談対応
12時頃 ~13時	各チームが訪問先から 一旦帰庁	《昼食》 各チームから質疑を受ける事あり
15時頃	各チームが訪問先から 帰庁	各チームは日報や世帯調査票への記載・入力) 各チームから相談や報告があれば受ける ①日報②対象者名簿一覧③世帯調査票④地図を回収。 ※①②とも紙と電子の両方の報告が必要。 →8/13~チェックリストも一緒に提出してもらう。
15時半	滋賀県にて訪問結果の 回収・要支援者の把握	16時の全体ミーティングまでに、訪問数や要支援者の数・概要等を当日の市リーダーに報告。
16時	全体ミーティング @すこやかルーム	(代表者のみ)当日の活動内容を報告 →訪問対象者+訪問人数+出会えた人+不在者の数等を市の班リーダーが報告。 滋賀県チームからも周知事項があれば、この場を活用する
16時過ぎ~	本日の訪問書類を市 へ提出 翌日の訪問準備	回収した書類が揃っているか確認。訪問残数を一覧に入れる。 翌日の訪問先の割り振りとは名簿・地図の準備*2 回収した訪問書類を市へ提出。その時に、翌日の動きや本県で更に担えそうなことなど情報収集。

➡八代市保健師との調整

☞支援チームとの関わり

☞支援チームとの関わり

➡八代市保健師との調整

☞支援チームとの関わり

☞支援チームとの関わり

➡八代市保健師との調整

➡八代市保健師との調整

今回の統括チームの主な活動

◆統括チームとしての情報発信・雰囲気づくり

- ・全体ミーティング(朝・夕)等で必要時発言。
- ・必要な資料準備・情報整理・執務室の環境調整
- ・相談しやすい雰囲気をつくり、各チームからの訪問ケースに関する相談を受ける。

◆保健師等チームの活動調整と管理

- ・保健師等チーム数に応じた訪問地区の割り振り、訪問結果のとりまとめ。
- ・チーム員の職種に応じた活動調整(医師・栄養士には避難所に常駐してもらう等)
- ・新規支援チームオリエンテーション資料作成の際に、八代市災害対策本部から必要な情報を入手して盛り込む。

今回の統括チームの主な活動

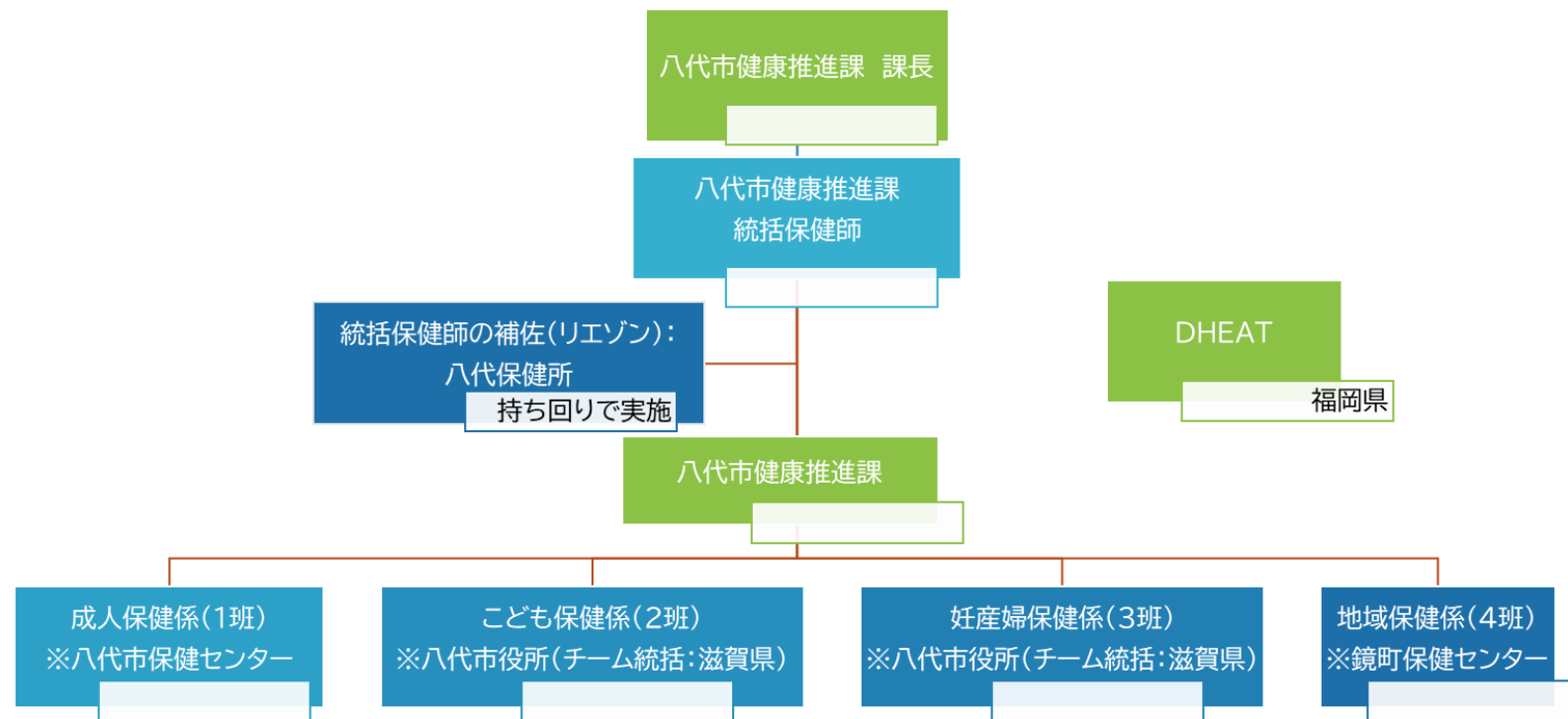
◆DX化の推進(業務の効率化)

- ・新規支援チームの活動日程管理(初回入力用のグーグルフォームの作成・運用)
- ・訪問結果の日報管理(訪問数・不在投入数・要支援者数・具体的状況等のグーグルフォームの作成・運用)
- ・訪問結果のタブレット入力の推進(マニュアル作成・説明・相談対応)

◆八代市の意向に合わせた保健師等チームの活動の方向性検討

- ・市統括保健師との密な連絡調整と意見交換
- ・在宅および避難所避難者の現状と課題、今後の取組について協議に参加。
(市、DHEAT、保健所、滋賀県)
- ・在宅避難者支援の今後の取組について、市、滋賀県、保健師チーム代表
(大分市)で協議。

3. R8熊本地震に係る滋賀県が統括チームを実施した中で感じた課題と今後への提案



統括チーム機能の必要性

- 被災市の保健師は、徐々に増加する支援チームへの対応等、膨大な業務に追われ疲弊していた。
- ➡被災市の保健師の業務負担軽減をするとともに、保健師等チームの活動を、効率的かつ効果的に実施するためには、統括チーム機能は必要。

統括チームの構成員に求められる能力

- 今回滋賀県は、各班リーダーがキャリアレベル(A-4)以上保健師であった。
- 統括チームの活動を展開するには、マネジメント力、市町支援、災害派遣の経験があることが望ましいと感じる。
- 被災市の業務負担軽減のためには、DXに精通した保健師活動を理解する職員がいること、もしくはそのサポートが受けられることが望ましい。また、DXは被災市職員が継続して活用できるように配慮しながら対応することが求められる。

統括チームの役割と位置づけの明確化が必要

- 統括チームとしての役割が、もともと決まっているものはないため、市もこちらも手探りで考える状況であった。
- 被災市保健師には遠慮があり、滋賀県に何をどこまで依頼していいかわからない状況もあり。こちらも、被災市の意向を尊重し、押し付けにならない提案を心がけた。
- 「自宅避難者、避難所避難者の健康ニーズを総合的に集約し、対策の方針がどのように決められているのかわからない。避難所のことも気になるが言えない」ことがあった。
- 「やること(75歳以上独居サービス未利用者訪問等)を、どのようにしたら市の負担が軽減できるのか、という観点での動きとなっているがそれでよいのか。全体像が見えない中でのお手伝いでよいのか。」(もやもや)
- 統括保健師補佐役に保健所リエゾンが位置づいていたが、そこに統括チームがどう入るのか、DHEATとのちがいもある。DHEATは八代保健所の支援として八代市の保健活動にも関与するため、被災市における保健師等チームとの役割分担が明確でなかった。統括チームの立ち位置はどこか。

統括チームの活動(姿勢)で大切だと思う事

- 最も大切なことは、被災地保健師との信頼関係を築くこと。
- 被災地保健師の思いをくみ取りながら活動すること。
- まずは、被災地保健師の業務負担を軽減できることを探す。
- 状況に応じて、保健師等チームの活動から得た情報を集約し、被災地保健師とのパイプ役として、活動の方向性を検討できるための資料を提供する。
- 活動方法など決めたことを硬直的に守るのではなく、被災地の状況に応じて、適切に見直し、調整する柔軟性が必要。
- 必要時は、「判断と調整の支援者」として活動の方向性の検討に加わる。